

吉川秀夫名誉教授、丘友名誉会員訃報のお知らせ

吉川秀夫先生におかれましては、平成 26 年 10 月 27 日に肺炎のため享年 92 歳にて逝去されました。ここに深く哀悼の意を表し、謹んでお知らせ申し上げます。

吉川先生は、昭和 19 年に東京大学第二工学部を卒業、平成 21 年に同大学院修士課程を修了され、同年内務省土木試験所に奉職されて以来、わが国の河川改修技術と河川工学の発展に寄与されました。建設省土木研究所河川部長を勤められた後、昭和 40 年 9 月、東京工業大学土木工学科に着任されました。当時の学科教員の構成は、教授が山口柏樹先生と吉川先生、助教授が椎貝博美先生と長瀧重義先生、助手が木村孟先生の合計 5 名で、吉川先生は山口先生と共に学科の設立と発展にご尽力されました。私は 6 期生ですので学科設立当初のことを直接は存じませんが、木村先生がお書きになった「思い出すことなど—土木工学科設立の頃—(木村孟先生還暦記念会)」に詳しく紹介されています。

私が土木工学科に入った昭和 45 年には、土木工学科は 6 講座に拡大されており、吉川先生は水工学第一講座教授として水工グループを率いていらっしゃいました。助教授は日野幹雄先生と椎貝先生、助手は福岡捷二先生、澤本正樹先生、池田駿介先生でした。当時のカリキュラムは力学・数学の基礎をみっちり教えるように構成されており、レポートだけで単位がもらえる類の応用科目はほとんどなく、成績の悪い学生は容赦なく留年させられました。中でも水理学の単位を取るのがたいへんと言われていました。講義内容が難しいこと(今でもそうですが)もありましたが、吉川先生の講義は言葉も黒板の字も小さく、しかも必要最小限でしたので、聴く方はよほど集中力を持続させる必要がありました。

研究室でも先生の言葉は少なく、研究打ち合わせでは貧乏ゆすりをしながらじっと聞いていらっしゃる時間が多かったです。質問やコメントをされる前には貧乏ゆすりがピタッと止まり、学生は緊張して先生の言葉を待つのですが、先生はそのまま長時間考えておられるときもありました。また、やおらキャビネットを開けて文献を探し始めることもありました。初めてのときに私はビックリしたのですが、取り出した学会誌の中の関係する論文の頁をビリビリと引き剥がし、「次回までに読んで検討するように」と渡されました。当時はコピーが簡単ではなかったので手っ取り早い方法ではありました。しかも先生所蔵の原本ですから粗末には扱えません。学生は勉強しないわけにはいきませんでした。

先生は昨年 5 月に三鷹にある介護付き老人ホームに入居されました。同期の北川明君が知っており、今年 6 月に私を連れて行ってくれました。先生は非常にお元気で、約 2 時間休みなく現行治水計画の問題点について持論を話されました。学生の時の講義より詳細且つ高度な内容で、たぶん「君達も多少わかるようになっているだろう」とお考えになったのだと思います。それから数回、私達は先生の講義を拝聴しに伺いました。8 月に伺ったとき、先生は「ずっと考えているのだがわからないので調べてほしい」と私達に宿題を出されました。北川君へは、キャサリン台風で利根川右岸堤(東京側)が切れた原因についてです。先生が土木試験所に勤められて間もないときのできごとです。私の宿題は岡山の百間川築造に関する熊沢蕃山の治水論についてです。先生は岡山市にあった旧制第六高等学校の御卒業で、百間川の氾濫に遭遇されたこともあります。私達は取り敢えず収集した資料を 9 月にお届けしましたが、そのときは以前と変わらずお元気でした。しかし 10 月になって連絡が取れなくなり、11 月に亡くなられたとの知らせを受けました。頂戴した宿題をできるだけ早く完結して先生にご報告したいと考えておりますが、たいへん大きな課題ですので、同窓会諸兄のご支援を賜れば有難く存じます。

(東京工業大学環境理工学創造専攻 石川忠晴 (丘友 6 期))



故吉川秀夫 名誉教授